

平成22年度花育マスター制度まとめ

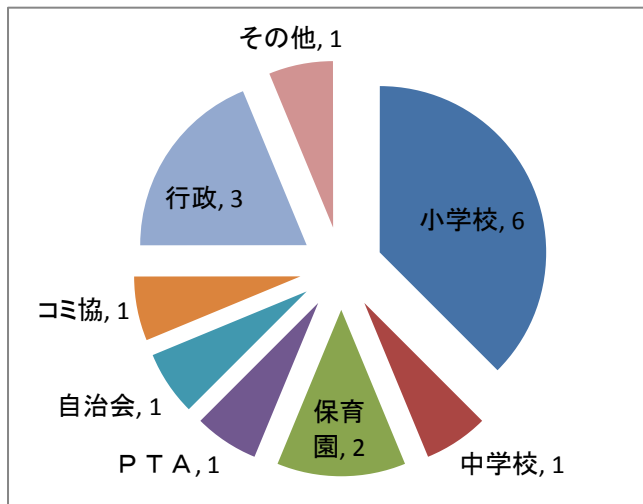
1 年度別登録者数

H21	H22	合計
24	7	31

2 年度別利用者数

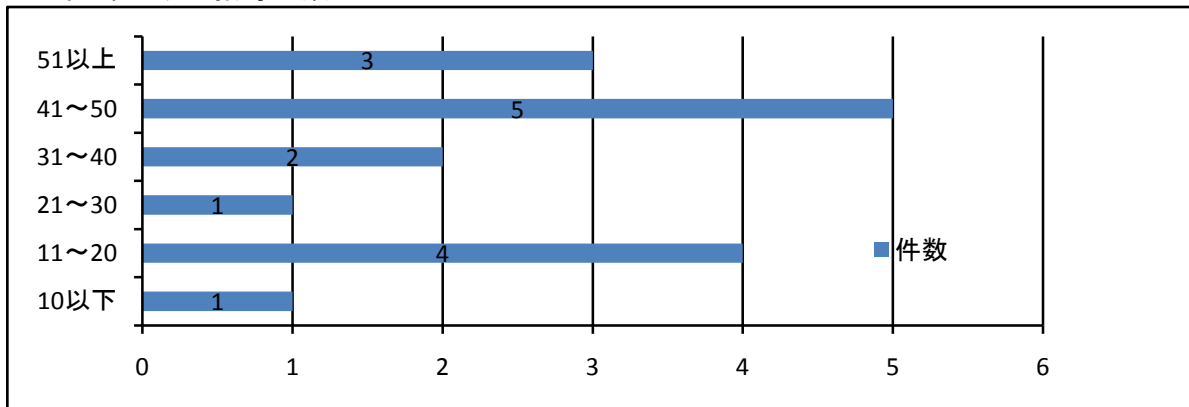
H21	H22	合計
1	16	17

3 利用区分

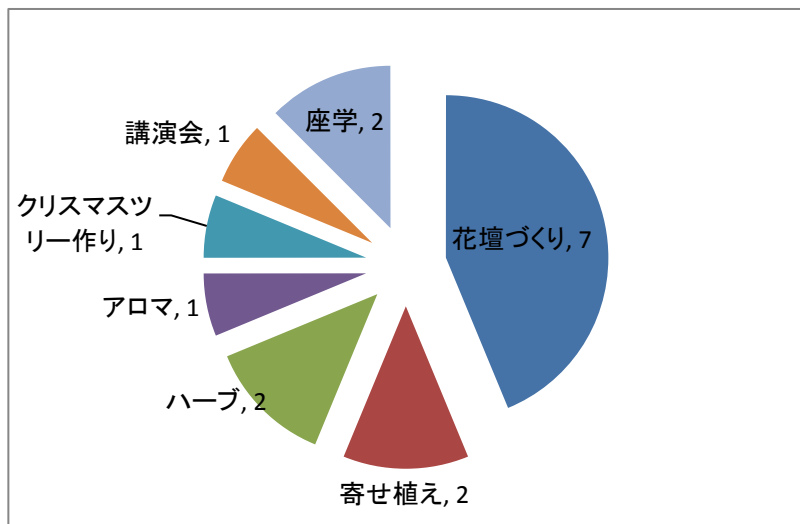


4 派遣した花育マスター：8人

5 1回あたりの指導人数



6 利用内容(活動内容)



7 利用者アンケート結果（回答数9件）

①制度を知ったきっかけ

園芸センターに相談した際に知った	2
制度を紹介するチラシを見た	4
ホームページを見た	0
友人・知人等の口コミ	3

②利用した回数

1回	6
2回	2
3回	1
4回以上	0

③花育マスターとの打ち合わせについて

十分に出来た	1
概ねできた	6
あまりできなかつた	2
ほとんどできなかつた	0

④花育マスターの指導について

大変わかりやすかつた	5
わかりやすかつた	2
どちらとも言えない	2
分かりにくかつた	0
大変分かりにくかつた	0

⑤今後の利用について

是非、利用したい	2
報償費の補助制度が続くのであれば利用したい	5
わからない	2
利用しない	0

⑥自由意見

- ・制度の知名度が低い、PRが必要
- ・もっと大きな運動になり、新潟市が緑あふれる市になると良い
- ・花育マスターへの謝礼金の補助があるのは大変助かる。
- ・わかりやすいパンフレットで利用しやすかつた
- ・学校(校長、教頭、理科)には制度を周知する必要がある。
- ・もっと生産者やJAとの関係が密接になれば企画の幅も広がると思う。

8. 花育マスターへのアンケート(回答数7件)

①利用者との事前打ち合わせについて

十分できた	3
概ねできた	3
あまりできなかつた	1
ほとんどできなかつた	0

②花育マスター1人に対する利用人数

多すぎた	1
ちょうどよかつた	6

③花育マスター1人に対する適性人数

10人まで	0
20人まで	1
30人まで	2
40人まで	0
何人でも良い	4

④花育マスターを補助するアシスタントについて

ア 必要である	2
イ 必要ない	5

⑤花育マスターを補助するアシスタント制度について

市が中心となり、講習会の開催等で人材育成をしてアシスタントを養成する必要がある	1
人材育成のカリキュラム作り、講師として協力することができる	1
公募で人材を募集すべきである	1

⑥自由意見

- ・利用者に関する詳しい情報をメール等で欲しい(人数、目的、対象者、場所等)
- ・現地ニーズの把握や掘り起しをいかにするかが課題
- ・相手に身分を提示する名札等が必要
- ・講習だけでなく産業への協力も必要
- ・更なる制度のPRが必要